

# 米国農務省穀物等需給報告(2013年9月12日発表のポイント)

平成25年9月13日

大臣官房食料安全保障課

米国農務省は、9月12日(現地時間)、2013/14年度の5回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2013/14年度の穀物全体及び大豆の生産量は消費量を上回る見込み－

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:24億3,120万トン(対前年度比 8.0%増)
- ② 消費量:23億9,397万トン(対前年度比 4.5%増)
- ③ 期末在庫量:4億6,708万トン(対前年度比 8.7%増)  
期末在庫率:19.5%(対前年度差 0.7ポイント増)

### 【主な品目別の動向】

**小麦** :生産量は、米国で乾燥等の影響により減少となるものの、ロシア、カザフスタン等旧ソ連諸国や、EU等で増加となることから、世界全体で前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量もインド、ロシア等で増加し史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの消費量の伸びに対して期末在庫量の伸びが小さかったことから、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量:7億889万トン(対前年度比 8.2%増)・・・ロシア、EU、カザフ等で増加、米国、インドで減少  
(前月に比べ、カナダ等で上方修正)
- ② 消費量:7億647万トン(対前年度比 3.8%増)・・・インド、ロシア等で増加、米国等で減少
- ③ 期末在庫量:1億7,628万トン(対前年度比 1.4%増)・・・中国、EU等で増加、米国、インド等で減少  
期末在庫率:25.0%(対前年度差 0.6ポイント減)

**とうもろこし** :生産量は、米国で高温・乾燥の影響により単収が低下した前年度と比べて増加し史上最高、旧ソ連諸国、EU、中国等でも増加となることから、世界全体で前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量も、米国、中国等で増加し史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:9億5,667万トン(対前年度比 11.2%増)・・・米国、旧ソ連諸国等で増加、ブラジル等で減少  
(前月に比べ、米国で上方修正)
- ② 消費量:9億2,784万トン(対前年度比 6.7%増)・・・米国、中国、旧ソ連諸国、メキシコ等で増加
- ③ 期末在庫量:1億5,142万トン(対前年度比 23.5%増)・・・米国、旧ソ連諸国等で増加、中国等で減少  
期末在庫率:16.3%(対前年度差 2.2ポイント増)

**米(精米)** :生産量は、インド、タイ、ベトナムで史上最高となるほか、東南アジアを中心に増加することから、世界全体では史上最高の前年度を更に上回る見込み。また、消費量もインド、中国等で増加し史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:4億7,677万トン(対前年度比 1.7%増)・・・インド等で増加
- ② 消費量:4億7,455万トン(対前年度比 1.3%増)・・・インド、中国等で増加
- ③ 期末在庫量:1億739万トン(対前年度比 2.1%増)・・・タイ等で増加  
期末在庫率:22.6%(対前年度差 0.2ポイント増)

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、米国で高温・乾燥により収穫量が減少した前年度と比べて増加。ブラジルで収穫面積の増加により史上最高、アルゼンチンで高単収と史上最高の作付面積により増加となること等から、世界全体で前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量もアルゼンチン、中国等で増加し史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:2億8,166万トン(対前年度比 5.3%増)・・・ブラジル、アルゼンチン、米国等で増加  
(前月に比べ、ブラジル等で上方修正、米国等で下方修正)
- ② 消費量:2億6,889万トン(対前年度比 4.3%増)・・・アルゼンチン、中国、ブラジル等で増加
- ③ 期末在庫量:7,154万トン(対前年度比 16.2%増)・・・ブラジル等で増加  
期末在庫率:26.6%(対前年度差 2.7ポイント増)

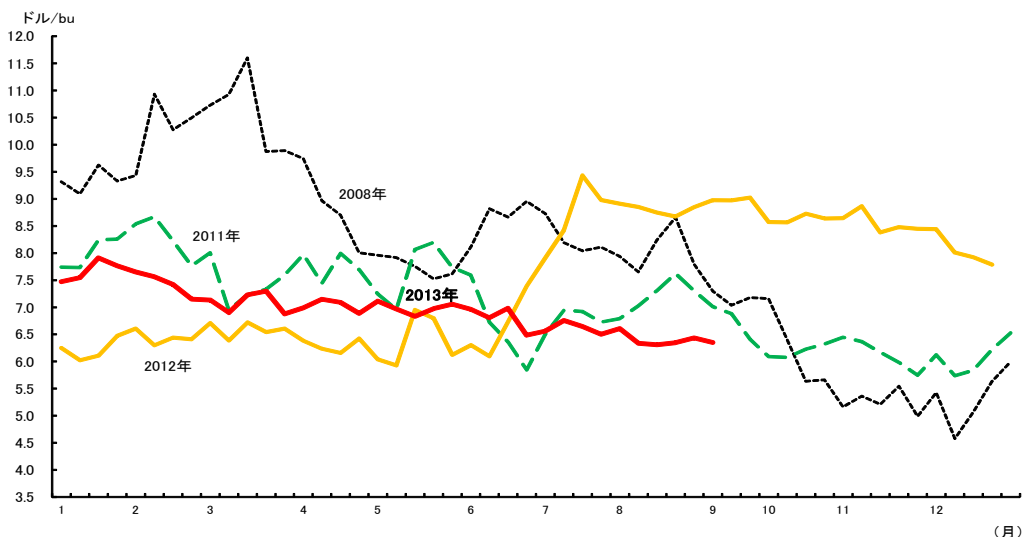
担当:大臣官房食料安全保障課 松井、浅田 (内線3805)

## 世界の穀物の価格動向(2013年)

- 小麦: 6.35ドル/bu(前年同時期の価格: 8.85ドル/bu)  
(価格は、シカゴ商品取引所における9月第1週末の期近価格。)

2012年1月以降、世界的に在庫が豊富な中、6ドル/bu台前半～半ばで推移。5月中旬に米国南部やEU東部、旧ソ連諸国、豪州等での乾燥天候による作柄懸念から一時値を上げたものの、その後の各地の降雨により値を下げた。6月半ば以降、高温乾燥で被害を受けた米国産とうもろこしの急騰に追随したことに加え、乾燥天候等による旧ソ連諸国の減産見込みから高騰したものの、7月半ば以降、米国産春小麦の収穫進展で値を下げた。9月以降、値を下げた大豆、とうもろこしに追随しながらも、米国の需要増、豪州の生産見通しの悪化懸念や10月以降の米国冬小麦地帯での乾燥による初期生育状況の悪化、ウクライナの輸出規制の動向等から、8ドル/bu台後半から半ばで推移。その後、南米産の良好な生育見通しによるとうもろこし価格の下落や、インド、カナダの輸出余力等から、12月後半から8ドル/buを割り込んだ。

2013年1月以降、米国冬小麦地帯での乾燥の継続から一旦上昇したものの、2月以降の降雨・降雪による乾燥懸念の緩和から7ドル/bu前後に値を下げた。3月末の米国四半期在庫報告で市場予想を上回る在庫となったものの、4月以降、米国で冬小麦の凍害や乾燥による作柄の悪化懸念、春小麦の作付け遅れ等から6ドル台後半から7ドル台前半で推移した。6月以降、中国の旺盛な輸入需要があるものの、米国産冬小麦及び春小麦、北半球の小麦生産地での収穫の進展と世界全体の豊作見込みから、現在6ドル/bu台前半で推移。



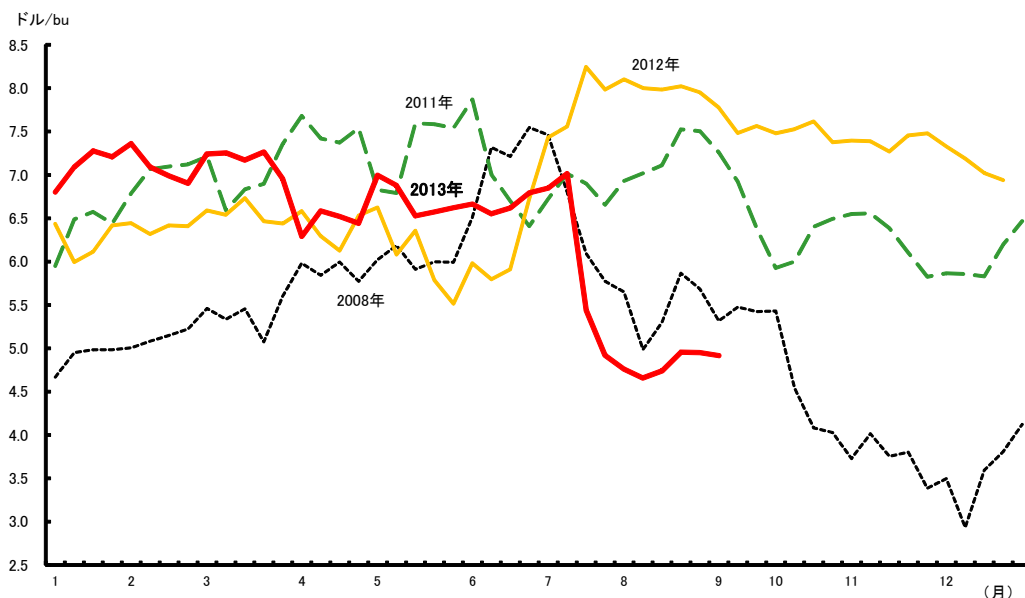
注: シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

(月)

- とうもろこし: 4.92ドル/bu(前年同時期の価格: 7.95ドル/bu)  
(価格は、シカゴ商品取引所における9月第1週末の期近価格。)

2012年1月以降、6ドル/bu台半ばで推移したものの、3月半ば以降、米国の作付面積が1937年以降最大と見込まれたことや、例年以上の作付進捗から値を下げた。4月半ば以降、一時中国等の堅調な輸入需要から値を戻したものの、米国産の順調な生育やブラジルの冬とうもろこしの増産等から値を下げた。6月以降、米国コーンベルトでの受粉期を通じた高温・乾燥による作柄への影響から値を上げ、7月に8.25ドル/buと最高値を更新し、8月21日には8.31ドル/buと過去最高値を記録した。9月以降、南米の降雨過多によるとうもろこしの作付け遅れがあったものの、米国産の収穫進展や、高値による輸出需要の不振等から値を下げた。11月以降、引き続きアルゼンチンの降雨過多によるとうもろこしの作付け遅れがあったものの、米国の輸出不振から7ドル/bu台前半から半ばで推移。その後、南米の天候回復や引き続き輸出不振から、12月後半以降7ドル/buを割り込んだ。

2013年1月以降、米国のエタノール生産は減少したものの、飼料用需要が増加したことやアルゼンチンの高温・乾燥天候から7ドル/bu台前半に値を上げた。2月以降、米国の輸出需要の不振やブラジルの豊作見込みから一旦値を下げたものの、飼料用需要、エタノール生産の増加等の需要回復見込みから再び値を戻した。その後、3月末の米国四半期在庫報告での市場予想を上回る在庫から値を下げたものの、4月中旬以降、米国で低温多雨型の天候による2013/14年度の作付け遅れから値を上げた。5月半ばには天候の回復による作付けの進展から6ドル/bu台後半に下げたものの、その後は旧穀の需給の引き締めから、7ドル/bu前後に上昇した。7月中旬以降、2013/14年度の米国産の豊作が見込まれることから、4ドル/bu台後半に下落。8月以降も、米国産の生育の遅れや米国コーンベルトの降雨不足傾向があったものの、4ドル/bu台後半で推移。

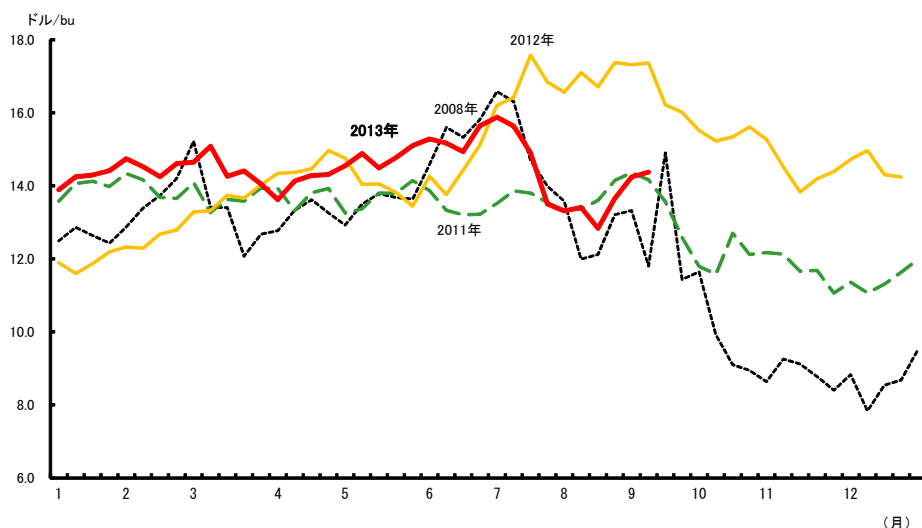


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● 大豆:14.37ドル/bu(前年同時期の価格:17.32ドル/bu)  
 (価格は、シカゴ商品取引所における9月第1週末の期近価格。)

2012年1月以降、引き続き南米産の減産見通しや米国作付意向面積の伸び悩み、中国等の輸入需要から一時15ドル/bu台まで値を上げたが、5月中旬以降、米国での平年を上回る作付けの進展や、初期生育期の良好な天候から値を下げた。6月以降、米国では例年より早い生育進捗となったが、コーンベルトの開花期の高温・乾燥による作柄への影響懸念から、7、8月と最高値を更新し、9月4日には17.71ドル/buと過去最高値を記録した。9月半ば以降、収穫の進展から値を下げた。10月半ばには南米の降雨過多による作付け遅れ等から一時上昇したものの、その後の天候回復見込みや、11月の米国需給報告で作柄の回復が示されたこと等から下落した。11月半ば以降、米国の輸出需要の復調等から14ドル/bu台後半に上昇したものの、南米の天候回復やブラジルの一部で収穫が開始されたことから14ドル/bu台前半で推移した。

2013年1月以降、好調な輸出成約やアルゼンチンの高温・乾燥天候から値を上げたものの、2月以降、アルゼンチンの天候回復やブラジルの豊作見込みから一時値を下げた。その後、米国の堅調な輸出需要から値を戻したものの、3月中旬から南米の収穫の進展や3月末の米国四半期在庫報告で市場予想を上回る在庫となったことから値を下げた。4月中旬以降、米国で低温多雨型の天候による2013/14年度の作付け遅れや、旧穀の需給の引き締めから16ドル/bu台前後に上昇した。7月中旬以降、2013/14年度の米国産の豊作が見込まれることから、13ドル/bu台後半に下落。8月以降、米国産の降雨不足による作柄への影響が懸念され、14ドル/bu台前半で推移。

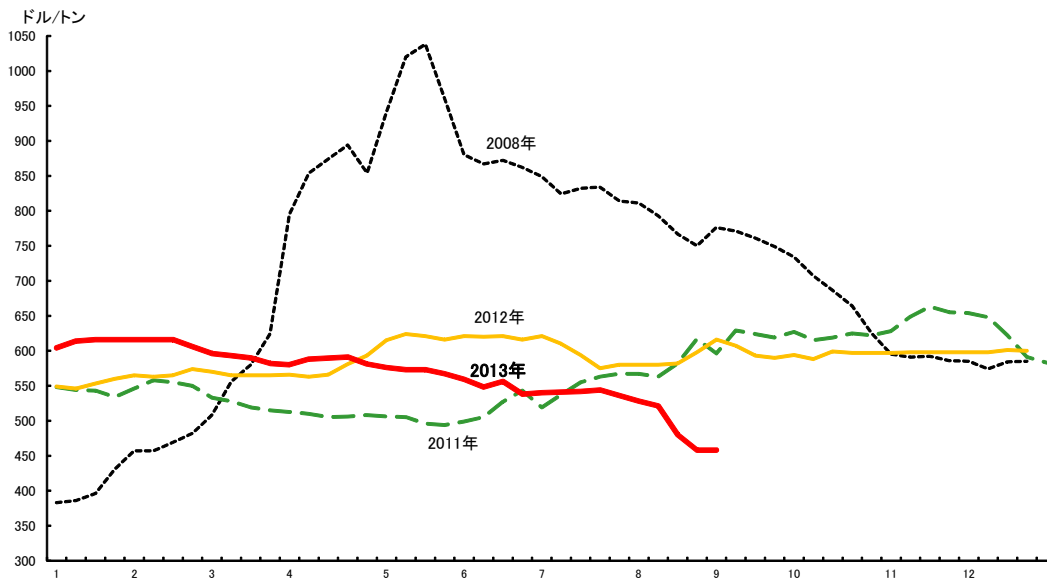


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

- 米:458ドル/トン(前年同時期の価格:616ドル/トン)  
(価格は、タイ国家貿易取引委員会における9月第1水曜日のFOB価格である。)

2012年4月以降、タイで担保融資制度による買上げで輸出向けの供給量が引き締まり、600ドル/トン台前半で推移。7月以降、輸出需要が落ち着いたことから、600ドル/トン前後で推移。

2013年1月以降、引き続き輸出向け供給量が引き締まったことから、価格は堅調に推移したものの、2月以降、タイにおける政府在庫の放出や輸出需要の動きが鈍いこと等により、現在は450~460ドル/トンで推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

(月)

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

17年	18年	19年	20年	21年度	22年度	23年度	24年1月	2月	3月
113.26	116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	76.97	78.45	82.43
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25年1月
81.49	79.70	79.32	79.02	78.66	78.17	78.97	80.87	83.64	89.18
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
93.21	94.75	97.71	101.08	97.43	99.71	97.87			

注: 東京市場銀行間取引、直物相場終値平均(日本経済新聞)

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年1月	2月	3月
49.49	41.59	85.22	94.68	51.29	61.77	53.05	50.24	45.90	47.01
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25年1月
51.01	48.60	44.71	45.77	44.49	42.71	46.30	45.19	44.11	44.24
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
44.28	47.52	44.84	43.75	43.02	46.13	44.42			

注: 米国ガルフー日本間(穀物、パナマックス級; World Maritime Analysis Weekly Report)

19年4月よりパナマックス級のサイズ変更(65,000DWT→72,000DWT)

25年7月の数値は、25年9月6日現在の暫定値

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年1月	2月	3月
56.56	66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	100.32	102.26	106.20
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25年1月
103.35	94.72	82.41	87.93	94.16	94.56	89.57	86.73	88.25	94.83
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
95.32	92.96	92.07	94.80	95.80	104.70	105.79			

注: 内閣府「海外経済データ(平成25年8月)」

25年8月の原油価格(WTI)は「U.S. Energy Information Administration」の8月23日までの週別価格の平均値。